

## 平成30年度（地理・歴史科）教育指導計画

### （1）科目の配当・分担表

（必修 ◎，選択必修 ○，選択 △）（講師：\*）

学 年	科 目 名	必修・選 択	単位数	クラス数	時数	担当者名
1	地理A	◎	2	4	8	大満 秀一郎
2	世界史A	◎	2	4	8	笹川 裕史
2	日本史A	◎	2	4	8	生川 年雄
3	地理B	△	4	2	8	大満 秀一郎
3	世界史B	△	4	2	8	笹川 裕史
3	日本史B	△	4	2	8	生川 年雄

(2) 指導計画表

科目名：地理A	学年：1	単位数：2	担当者名：大満 秀一郎
<p>1. 授業目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球儀や地図から現代社会の姿をとらえ、世界の諸地域の特色を形作った環境条件を理解する。</li> <li>地球という球体を平面に描く地図の各種の図法と、国土地理院発行の地形図に関する知識を着け、読図能力を高める。</li> <li>データを地図に描く技術を身につける。</li> <li>地形・気候などの自然環境が生活・文化に影響を与え、諸地域独特の特色を形作っていることを認識する。</li> <li>地球規模に拡大した課題の成り立ちと、私たちとの関連を理解する。</li> <li>日本や世界の自然環境と災害について認識を深め、防災に関する知識と関心を高める。</li> </ul> <p>2. 評価観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな地理的事象をとらえる上でのキーワードを理解し、地理的事象の説明に活用できるか。</li> <li>地図や統計資料などのデータ作成、データ分析ができるか。</li> <li>フィールドワーク調査で観察し、適切な方法で表現することができるか。</li> </ul> <p>3. 指導方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存の知識や資料を活用し、思考力を育てながら地理的事象を理解できるようにする。</li> <li>フィールドワーク調査や学校行事を通して、実際に体験する機会を提供できるようにする。</li> <li>発表など生徒自身が自分の考えを発信する機会を設け、問題点について議論ができるようにする。</li> </ul> <p>4. 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査により、知識や理解力、資料活用能力などを評価する。</li> <li>フィールドワークレポートや課題レポートなどから、地理的事象を分析しようとする意欲や表現方法などを評価する。</li> <li>授業への取り組みの姿勢から、関心・意欲を評価する。</li> </ul>		<p>5. 年間計画</p> <p>1 学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界的視野からみた地形</li> <li>さまざまな地形と生活</li> <li>地球儀や地図でとらえる現代世界</li> </ul> <p>2 学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界的視野から見た気候</li> <li>世界の気候と生活</li> <li>自然環境と防災</li> </ul> <p>3 学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第一次産業 地誌的視点から見た世界の農業</li> <li>食料問題 食糧供給のアンバランス</li> <li>資源・エネルギー問題 せまられる有効利用</li> </ul>	
		<p>使用教科書</p> <p>新地理A (第一学習社)</p> <p>新詳高等地図 (帝国書院)</p>	

科目名：地理B	学年：3	単位数：4	担当者名：大満 秀一郎
<p>1. 授業目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の地理的事象を系統地理的に、現代社会の諸地域を、歴史的背景などを踏まえて、地誌的に考察する。</li> <li>・現代世界の地理的認識を養い、地理的な見方や考え方を培い、国際社会にて活用できる知識を身につけさせる。</li> </ul> <p>2. 評価観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな地理的事象をとらえる上でのキーワードを理解し、地理的事象の説明に活用できるか。</li> <li>・地図や統計資料などのデータ作成、データ分析ができるか。</li> <li>・フィールドワーク調査で観察し、適切な方法で表現することができるか。</li> </ul> <p>3. 指導方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地誌学習は系統地理で一通り学んだことを様々な角度から分析できるようにする。</li> <li>・視聴覚教材や資料を有効に活用し、生徒の学習意欲の喚起を促し、授業を進める。</li> </ul> <p>4. 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査により、知識や理解力、資料活用能力などを評価する。</li> <li>・フィールドワークレポートや課題レポートなどから、地理的事象を分析しようとする意欲や表現方法などを評価する。</li> <li>・授業への取り組みの姿勢から、関心・意欲を評価する。</li> </ul>		<p>5. 年間計画</p> <p>1 学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次産業</li> <li>・資源と産業</li> <li>・人口と村落・都市</li> </ul> <p>2 学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活文化と民族・宗教</li> <li>・現代世界と日本</li> </ul> <p>3 学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の地誌的考察</li> </ul>	
		<p>使用教科書</p> <p>新詳地理B (帝国書院)</p> <p>新詳高等地図 (帝国書院)</p> <p>副教材・テキスト等</p> <p>新詳地理資料COMPLETE (帝国書院)</p> <p>データブックオブザワールド (二宮書店)</p>	

科目名：世界史A ◎	学年：2年	単位数：2	担当者名：笹川裕史
<p>1. 指導目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代の諸地域の様相を、グローバル＝ヒストリーの観点から理解させる。</li> <li>・ジェンダーの視点から歴史を見る目を養う。</li> </ul> <p>2. 評価観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代の諸地域の様相を、国際理解という観点から理解できているかを見る。</li> <li>・歴史的事象を図版や資料（資料）を通して理解できているかを見る。</li> </ul> <p>3. 指導方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、パネルなどの図像・実物教材などを利用する。またワークノートの作業等を通じて生徒が自ら考え、総合的に理解できるように努める。</li> </ul> <p>4. 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査の成績</li> <li>・授業への参加…出席状況や日常の授業態度等</li> <li>・課題等の提出…論術レポートや種々の課題等</li> </ul> <p>この3点を基本に総合判定をする。</p>		<p>5. 年間計画</p> <p>(1 学期)</p> <p>前半：</p> <p>19世紀後半のアジアとヨーロッパ</p> <p>後半：</p> <p>帝国主義の時代</p> <p>(2 学期)</p> <p>前半：</p> <p>第一次世界大戦と戦間期</p> <p>後半：</p> <p>第二次世界大戦前後</p> <p>(3 学期)</p> <p>20世紀後半の世界</p>	
<p>使用教科書：</p> <p>世界史A (東京書籍)</p> <p>副教材・テキスト等</p> <p>最新世界史図説 タペストリー 16訂版 (帝国書院)</p>			

科目名：世界史B	学年：3年	単位数：4	担当者名：笹川裕史
<p>1. 指導目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各時代の諸地域を理解する際に、現代社会と関連づける。</li> <li>各時代の諸地域の様相を、異文化理解という観点から理解させる。</li> </ul> <p>2. 評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各時代の諸地域に関する基本的事象が理解できているかを見る。</li> <li>歴史的事象を図版や資料（資料）を通して理解できているかを見る。</li> </ul> <p>3. 指導方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業では、パネルなどの図像・実物教材などを利用し、生徒が自ら考え、総合的に理解できるように努める。</li> </ul> <p>4. 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の成績</li> <li>授業への参加…出席状況や日常の授業態度等</li> <li>課題等の提出…論術レポートや種々の課題等</li> </ul> <p>この3点を基本に総合判定をする。</p>		<p>5. 年間計画</p> <p>(1 学期)</p> <p>前半： 古代オリエント・ギリシア・ローマ世界</p> <p>後半： 古代中国～隋唐時代</p> <p>補充授業： 宋代～明清時代</p> <p>(2 学期)</p> <p>前半： 中世ヨーロッパ世界</p> <p>後半： 近代ヨーロッパ世界</p> <p>(3 学期)</p> <p>20 世紀後半の世界</p> <p>*スーパーサタデー、および補充授業</p>	
<p>使用教科書：</p> <p>新詳 世界史B (帝国書院)</p> <p>副教材・テキスト等</p> <p>最新 世界史図説 タペストリー 15 訂版 (帝国書院)</p>		<p>(1 学期)</p> <p>古代南アジア世界 イスラーム世界</p> <p>(2 学期)</p> <p>未定</p>	

科目名：日本史A	学年：2	単位数：2	担当者名：生川年雄
<p>1. 指導計画</p> <p>(1) 現代の事象に直接的な関わりが深い近代以降の日本の歴史を学ぶ中で、現代および未来の日本と世界をより良いものにしていこうとする姿勢を育んでゆく。</p> <p>(2) 戦争と平和に関して、アジア、世界の中の日本としての歴史認識を深めてゆく。</p> <p>(3) 大日本帝国憲法と日本国憲法の制定過程および制定後の歴史を比較する中で、立憲主義の重要性を学んでゆく。</p> <p>2. 評価の観点</p> <p>(1) 歴史についての興味・関心</p> <p>(2) 歴史の歩みに対する理解</p> <p>(3) 史料の活用</p> <p>3. 指導方法</p> <p>(1) 主として講義</p> <p>(2) 時々、発表や話し合い</p> <p>(3) VTR、CD、ポスターなど視聴覚教材の利用</p> <p>4. 評価の方法</p> <p>(1) 主として年5回の定期テスト</p> <p>(2) レポート、発表など</p> <p>(3) 授業に取り組む姿勢</p> <p>(4) 出欠・遅刻状況</p>		<p>5. 年間計画</p> <p>(1学期)</p> <p>プロローグ 歴史とは何か</p> <p>第一章 近代への転換</p> <p>1. 文明開化</p> <p>2. 明治初期の外交</p> <p>第二章 近代国家の形成と資本主義の発展</p> <p>1. 自由民権運動の展開と条約改正交渉</p> <p>2. 立憲政治への道と初期議会</p> <p>3. 朝鮮問題と日清戦争</p> <p>4. 政党の進出と日露戦争</p> <p>5. 産業革命と社会の変化</p> <p>6. 近代文化の形成と展開</p> <p>(2学期)</p> <p>第三章 両大戦間の日本と市民文化</p> <p>1. 第一次世界大戦</p> <p>2. 大戦後の内外状況</p> <p>3. 政党政治の展開</p> <p>4. 市民文化の展開</p> <p>第四章 十五年戦争と日本</p> <p>1. 満州事変</p> <p>2. 日中戦争</p> <p>(3学期)</p> <p>3. アジア・太平洋戦争</p> <p>4. 戦時下の国民生活</p> <p>第五章 現代の日本と新しい文化</p> <p>1. 占領と民主化</p> <p>2. サンフランシスコ講和会議と安保体制</p> <p>3. 高度成長下の日本</p> <p>4. 経済大国日本と国民生活</p> <p>主題学習</p> <p>1. 沖縄戦</p> <p>2. 「大東亜共栄圏」とその実態</p> <p>3. 沖縄戦後史と米軍基地</p> <p>4. 在日朝鮮人の歴史と日本社会</p>	
<p>使用教科書：</p> <p>高校日本史A 新訂版 (実教出版)</p> <p>日本史B (実教出版)</p> <p>副教材・テキスト等</p> <p>日本史のライブラリー (とうほう)</p> <p>自作プリント [史料を含む]</p>			

科目名：日本史B	学年：3	単位数：4	担当者名：生川年雄
<p>1. 指導計画</p> <p>(1) 日本の歴史を学ぶ中で、現代および未来の日本と世界をより良いものにしていこうとする姿勢を育てゆく。</p> <p>(2) さまざまな国や地域の人々との交流の中から培われてきた日本の社会・文化の成り立ちを学んでゆく。</p> <p>2. 評価の観点</p> <p>(1) 歴史についての興味・関心</p> <p>(2) 歴史の歩みに対する理解</p> <p>(3) 史料の活用</p> <p>3. 指導方法</p> <p>(1) 主として講義</p> <p>(2) VTR、CD、ポスターなど視聴覚教材の利用</p> <p>4. 評価の方法</p> <p>(1) 主として年4回の定期テスト</p> <p>(2) 授業に取り組む姿勢</p> <p>(3) 出欠・遅刻状況</p>		<p>5. 年間計画</p> <p>(1 学期)</p> <p>第二章 日本文化の黎明</p> <p>第二章 水稲農業の開始と社会生活の進展</p> <p>第三章 東アジア文化の影響と律令制度の成立</p> <p>第四章 摂関政治と荘園公領制の展開</p> <p>第五章 武家社会の成立と文化の新機運</p> <p>(2 学期)</p> <p>第六章 武家社会の展開と室町文化</p> <p>第七章 幕藩体制の展開と近世文化の成立</p> <p>第八章 幕藩体制の動揺と文化の成熟</p> <p>第九章 近代への展開</p> <p>1. 開国</p> <p>2. 明治維新</p> <p>(3 学期)</p> <p>主題学習1 世界の中の日本</p> <p>主題学習2 日本の伝統文化</p> <p>① 歌舞伎『勸進帳』</p> <p>② 人形浄瑠璃『曾根崎心中』</p>	
<p>使用教科書：</p> <p>日本史B (実教出版)</p> <p>副教材・テキスト等</p> <p>日本史のライブラリー (とうほう)</p> <p>新詳述 日本史史料集 (実教出版)</p> <p>自作プリント [史料を含む]</p>			